

コスタリカ大学電子顕微鏡センター創立・JICA 協力50周年記念式典
でのご挨拶（仮訳）

2024年11月27日

JICA コスタリカ支所長

吉田憲

研究担当副学長 マリア・ラウラ・アリアス・エチャンディ博士 様

国際協力部長 ディアナ シニア アングロ様

電子顕微鏡センター所長

ヘスス・アレクサンダー・ロドリゲス・アリエタ様

ご列席の皆様

おはようございます。

私は国際協力機構（JICA）コスタリカ支所長の吉田憲と申します。

まず最初に、コスタリカ大学の CIEMIC（顕微鏡研究センター）が50周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

ご存知の方もいるかもしれませんが、私たち、JICA コスタリカもまた、協力活動の開始から50周年を迎えます。もちろん、これは偶然ではありません。私たちのコスタリカでの活動は、電子顕微鏡の技術協力を通じてコスタリカ大学（UCR）、CIEMIC と共に始まりました。

当時、私たちの機関は JICA（国際協力機構）ではなく、前身である OTCA（海外技術協力事業団）と呼ばれていました。

本日は、CIEMIC と日本の協力についてお話させていただきます。

OTCA（現在の JICA）の報告書を紐解ければ、その歴史は、1971年3月15日、副大統領アギラール博士が、コスタリカ大学医学部、微生物学部、および農学部の教授たちの研究目的のために電子顕微鏡の機器寄贈を求める口上書を日本大使館に送ったことから始まりました。これを受け、日本政府は、1973年10月29日から11月12日に調査団を派遣しました。

日本政府は、日本の技術協力の理念として、単なる機器の寄贈だけでなく、人と人との関係が伴う必要があると考えていました。よって、電子顕微鏡の寄贈は、日本の専門家の派遣や共同研究、教育、訓練を含む技術協力の一環であるべきだとしました。また、日本で技術訓練を受けたコスタリカの専門家が、長期的に電子顕微鏡を活用することを条件としました。

その後、幾度かの文書のやり取りを経て、1973年10月に大阪大学の深井孝之助教授を団長とする事前調査団が派遣され、1974年にコスタリカでの最初のプロジェクトとして、コスタリカ大学との電子顕微鏡による医学分野での協力が開始されました。

1974年6月4日、電子顕微鏡設置のために来た日本人専門家2人のうち1人である赤堀氏の報告書には、「建物には屋根も窓もなく、壁だけがある状態でした。電気配線や排水管も未完成で、工事担当者は完成に2カ月かかると言われましたが、その頃には私たちは帰国しなければなりませんでした」とあります。ニカラグアで大地震が発生し、政治的な判断によって、建材をニカラグアに送るためにコスタリカでは建材不足が生じていたのです。

しかし、日本大使館やコスタリカ政府、そして建設に関わる人々の努力のおかげで、工事は10日間で昼夜を問わず進められ、1974年8月9日に機器の引き渡し式が行われ、8月30日には両政府間で寄贈式典が行われました。

7年間にわたるこの分野での協力期間中、多くの日本人専門家がコスタリカを訪れました。その中には、宮本富夫氏、赤堀宏氏、小塚芳道氏、福岡孝寿氏、宮田辰則氏、布施脩氏といった方々がいました。UCRに4年間滞在した小塚博士の貢献は特筆すべきものです。御年91歳の小塚博士は、今なお生物医学の研究に余念がなく、2024年10月16日のUCRとJICAの協力50周年記念式典では、ビデオ出演され、コスタリカ科学の発展のために協力する意思を表明されました。

1973年の最初の調査団の報告書には興味深い記述があります。当時、多くの日本人はコスタリカを知らず、「コスタリカに行く」と話すと、それを百科事典の名前か何かだと思ふ人もいたそうです。一方、コスタリカでは日本への大きな好意が感じられたそうです。

私はコスタリカに駐在してまだ半年ですが、50年前と変わらずコスタリカの人々が日本に対して抱くこの好意を強く感じています。本日のCIEMICの50周年記念式典は、その好意と友情の証です。

しかし、50年の間に変わったこともあります。コスタリカを、多くの日本人が、自然や平和を愛する人々が暮らす国として知るようになったことです。この変化は、人と人との交流、つまり政治・経済的なレベルから市井の人々まで、コスタリカ人と日本人が信頼を築いていることが基盤となっていると思います。

これからもコスタリカと日本の人々が絆を深め、地域や世界の発展と平和に貢献することに、JICAが少しでもお手伝いできればこれに勝る喜びはございません。

ご清聴ありがとうございました。

(以上)

参考 [小塚専門家インタビュー](#)
[コスタリカ大学電子顕微鏡センターHp](#)



吉田憲 JICA コスタリカ所長、開会挨拶



記念プレート除幕式（CIEMIC 玄関、右、アレクサンダー所長、左、吉田所長）



記念プレート（上、1974年創設時の関係者氏名 下、2024年協力50周年）



現在も使われている1984年供与の電子顕微鏡。最近訪問されたメーカーの方も、パンフレットでしか見たことがなかった自社顕微鏡を初めてリアルで見られ興奮されていたとのこと。